

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
73

振興協議会だより

【発行日】令和7年6月27日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



苗場山麓ジオパーク認定ガイドはなんと112人！

4月19日（土）、ジオパークガイド認定証授与式が行われ、新しく6人の方々がガイドに加わり、苗場山麓ジオパークの認定ガイドは総勢112人となりました。いずれもジオパークに興味関心をお持ちになり、ガイド検定を受検し見事に合格されたみなさんです。今回は、地域おこし協力隊3名も合格し、授与式では新ガイドのみなさんからそれぞれスピーチをしていただきました。

地域おこし協力隊の市川さんは、ジオパーク特産商品新規認定の「青倉米」の運営に活躍されています。また、今秋オープンする津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」に勤務している川田さんは、センターで、ジオパーク活動や情報発信をサポートしていただけたと思われます。さらに、十日町市と津南町で展開されている「大地の芸術祭」事務局の長津さんは、苗場山麓ジオパークの活動における観光的な部門で一層の拡充を図れることが期待されます。みなさんには、ジオパーク活動へ大いに参加していただき、積極的なジオパーク発信やガイドとして即戦力となれるよう研鑽を積んでほしいと思います。

前年度は、苗場山麓ジオパークが日本ジオパークに認定されてから10周年を迎えた記念の年でした。これを受け、ガイドの皆さんに10周年記念の文字を入れたルーペをプレゼントしました。ガイドする際や、必要な場面において使っていただければと思います。次の20周年を目指して、どんな企画がよいだろうかこれからも検討していきたいと思います。

今年度は、令和8年度に予定されているジオパークの再審査に向けたプレ再審査、新潟圏域ガイド意見交換会、長野県立美術館でのジオパーク・写真展示会、防災こくたい in 新潟、埋蔵文化財センター「うもれあ」の開館など多くの催しが計画されています。具体的な計画を立案し事業を進めるにあたり、苗場山麓ジオパークガイドのみなさんにご協力いただきながら、様々な事業を展開・実施していきたいと思います。



新たに6名がガイドの仲間入り



10周年記念品のガイドさん用ルーペ



特産商品「青倉米」の認定式も行われました



ジオパークガイドスキルアップ研修で危機管理を学びました

5月10日（土）、今年度第1回目のガイドスキルアップ研修を実施しました。ガイドしている際の事故対応として、十日町地域消防署南分署員さんを講師にお招きし、「通報と初期の処置」及び「救命救急（AEDの使い方）」の実習を行いました。参加者は、10名と少数でしたが、3～4人の3グループで実施しました。参加者が少数のメリットとして、指導を受けながら、一人当たり何回も実習することができました。

2分間の胸部圧迫の実習では、普段なら「あっというまの2分」が思った以上に長く感じました。このことで、1人だけで胸部圧迫を5分10分と続けることは大変むずかしく、交代で処置できる人が大勢いると良いことも学びました。

以前、受講された方の中には、1回受講したから受けなくてもよいと思ってしまう方がおられるかもしれませんが、いざAEDを使用せざるを得ない場面に遭遇した時、毎年経験しておくことが大切であると感じました。

この研修に参加された方は、いざというとき落ち着いて実習内容を思い出し、救命処置に臨んでほしいと思います。救命救急の前線で活動されている講師の方のリアルな事例を聞く中で、この研修の重要性を学ぶことができました。



実際の現場を想定しながら救命処置を行います

日本地球惑星科学連合2025大会

令和7年5月24・25日（土・日）に幕張メッセにて開催されたJGNの新規申請地域のプレゼンテーション、ユネスコグローバルジオパークの動向、JGN運営会議、ジオパークセッション、ポスターセッションに、事務局3名で参加してきました。

新規申請のプレゼンテーションでは、喜界島ジオパーク構想がステージに立ち、サンゴ礁が隆起した大地と多様な植生、そして歴史文化についての紹介がありました。海成段丘は、本ジオパークの河岸段丘と同様、湧水と人々の暮らしの場としての共通点がありました。

ジオパークセッションは、防災・減災をテーマに行われました。火山、地震、台風、洪水など災害が多い日本列島において、ジオパークができること、役割についてパネラーの事例発表とともにディスカッションが行われました。災害の被害が多く報道される中、復旧・復興の内容まで記録し伝える必要があり、平時において、自然災害につながる普及活動のそなえが重要であることが再認識されました。

苗場山麓ジオパークでも、2011年3月12日に「長野県北部地震」が発生し、14年の歳月が経ちました。現在、小学校に通う子どもたちは生まれておらず、そのご両親も地震を経験していない方も多くいます。そのため、震災を実感しづらい状況になりつつあるため、震災復興祈念館「絆」やジオサイトの中条川の崩壊地形などの震災を伝える場所を活用しながら災害があったこと、そして、これからも起きる可能性があることを伝えていく活動を継続していくことの大切さを改めて考えさせてくれたセッションでした。

また、ポスターセッションにも参加し、様々な方々と意見を交わすことができ、とても有意義な2日間となりました。



ジオパークセッション



ポスター「未来につなげる苗場山麓のために」

二十歳のつどい・ジオパークアンケートを実施しました

津南町では、5月3日（土）、ニュー・グリーンピア津南を会場に「二十歳のつどい」が開催されました。

今年の二十歳のつどいの対象者は86名。うち65名が参加しました。昨年に引き続き、苗場山麓ジオパークの認知度等について出席した皆さんにアンケートを取りました。

※アンケートは全4問。結果について今号と次号の2回に分けてご紹介します。

○質問1 「苗場山麓ジオパーク」覚えていますか？

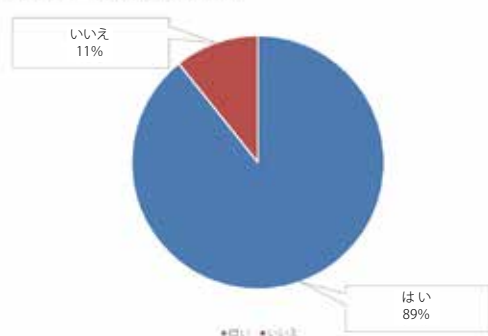
89%が「はい」と回答。（昨年は98%が知っている（覚えている）と回答。）昨年に比べ、割合が落ちているが約9割の方は覚えているの回答でした。

○質問2 地元に帰ってきたいと思いますか？

半数近くが戻りたいと回答。地元に住んでいる人を加えると6割を超える結果となりました。地元に愛着があることが十分伺えるのではないのでしょうか。

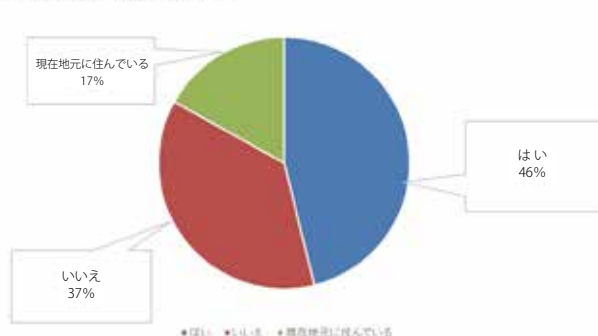
集計結果

「苗場山麓ジオパーク」覚えていますか？



質問1 苗場山麓ジオパーク覚えていますか？

地元に帰ってきたいと思いますか？



質問2 地元に帰ってきたいと思いますか？

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

照井 麻美さん



(ガイドナンバー 71 照井 麻美さん)

津南町に移住してきて、まもなく6年目を迎えます。元々千葉県出身で、まさか雪のないところからこんな豪雪地に引っ越してくるとは思ってもみませんでした。

津南町に初めて訪れた時の印象は「真っ白で何も無い町」だと思っていました。越後湯沢駅からの道中、バスの窓と同じ高さの雪壁が続き、教科書でしか見たことの無い「豪雪地」を感じ、ワクワクした気持ちと同時に「ここに人が住んでいるのか。」と雪国のすごさを思いました。

その後、2016年に初めて夏の津南町に1週間ほど滞在し、その時訪れた見玉公園が津南町移住のきっかけとなりました。

冬はあんなに雪が多いのに見玉公園から中津川を見下ろす景色があまりに美しく、気持ちの良い風を感じて私は「移住をするならここだ。」と決意したことを今でも鮮明に覚えています。

そのころは「ジオパークっていうのがあるんだ～」 「川の展望台に行ってみよう」 くらいの知識でジオパークや歴史・文化・自然に詳しいわけではありませんでした。

今まで海側に暮らしていて山に関する知識もなく、自分がジオパークガイドとなっていることが不思議なくらいです。

今ではヨモギやドクダミなどの野草を採ってお茶にして飲むほど里山の生活が身に沁みついています。

私は四季折々で景色が変わる沖ノ原台地の岸壁が好きです。春はあっという間に新緑が広がり、夏は緑が生い茂り、秋は徐々に彩りが変わる紅葉、冬は少しずつ雪化粧して、冬の終わりを雷鳴のような石落しを聞いて一年がめぐる。津南町で暮らしているとそんな雄大な自然がごく身近にあるので、そのすごさが当たり前になってしまっていますが、この雪国の自然と人との調和は本当に素晴らしいものがあると思います。

私はこれからもこの素晴らしさを多くの人に届けられるガイドとして活動していきたいと思っています。



春



冬

お知らせ

7月12日(土) 9:00~12:30

中津川左岸トレッキング 鳥甲牧場～県道分岐～屋敷 集合:農と縄文の体験実習館なじょもん

8月2日(土) 9:00~12:00

LNTワークショップこども編 集合:さかえ倶楽部スキー場

※大勢で参加ください!!



突撃しよう！となりのジオ便り～室戸ユネスコ世界ジオパークからこんにちは～

“室戸ユネスコ世界ジオパークの概要とコンセプト”

室戸ユネスコ世界ジオパークは、高知県東部の室戸半島に位置し、面積248.2km²の室戸市全域が範囲です。本ジオパークのコンセプトは「海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線」です。室戸の大地をつくる地層は海のプレートが陸のプレートの下に潜り込む深海で作られました。海底で形成された地層は、プレートの動きによって隆起し、陸地に現れています。この陸地で人々は自然災害と向き合いながら、自然から様々な恩恵を受けて暮らしています。



“海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線”

室戸は、世界の中でも自然環境が厳しい場所の一つです。約100～150年おきに巨大地震が大地を揺さぶり、大津波が沿岸に押し寄せ、その間には毎年のように台風が吹き荒れる土地です。それでも太平洋に突き出た室戸半島では、豊かで文化的な生活が1,000年以上にわたって営まれ続けています。



室戸岬

“地域の魅力に気づき、周囲を巻き込み、行動を起こしていく室戸高校生”

最近の室戸ユネスコ世界ジオパークに関するトピックを紹介します。一つ目は、地域の魅力に気づき、周囲の大人たちを巻き込み、行動を起こしていく室戸高校生の取組です。室戸高校では、探求学習の一環として「ジオパーク学」が設定されており、生徒たちが地域資源を教材にして学びを深めるプログラムや、他地域のユネスコ世界ジオパークとの交流の機会などが提供されています。最近では、観光で訪れた一般の方々に向けた室戸岬でのガイドを高校生が務めるなど、活躍の機会が広がっています。



高校生がガイドをする様子

“「黒潮」というテーマでつなぐ、ジオパーク同士での連携”

もう一つ、最近の室戸世界ユネスコジオパークに関連するトピックを紹介します。この3月から「ジオパークでえがく黒潮の道」と題し、黒潮沿岸の4地域（伊豆半島、南紀熊野、土佐清水、室戸）のジオパークが連携し、「黒潮による地域同士のつながりや共通点、交流が何を生み出したか？」をコンセプトに、合同企画展を開催しました。5月17日には、「ギャラリートーク」と称し4地域それぞれの専門員が室戸に集合し、更に各地域をオンラインで繋ぎながら、企画展の会場で展示の解説や交流を行い、参加者から大変好評を得ました。

これからも室戸らしさを中心に据え、室戸ユネスコ世界ジオパークは更なる魅力向上に励んでいきます。皆様のお越しをお待ちしています！



室戸世界ジオパークセンター



第11回 苗場山麓ジオパークフォトコンテスト開催・全8部門で作品大募集！

応募部門は「春」「夏」「秋」「冬」「暮らし・生活」「祭り・伝統」「動・植物」「学生（高校生以下）」、応募方法は2通りです。

●画像データでの応募・・・データ容量15MB以下で、830万画素（A4プリント以上）のJPEG形式のもの。

フォトコンテストWEBサイト（<https://naeba-geo.org/photo-con/>）のMENU内の応募フォームからご応募ください。

●プリント作品での応募・・・2Lサイズの作品の裏面に、フォトコンテストWEBサイトから印刷し、記入した応募票（応募規定のページにあります）を貼付し、お送りください。作品は、返却いたしません。

送付先はこちら⇒

〒949-8201

新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835

苗場山麓ジオパーク推進室（農と縄文の体験実習館 なじよもん内）

ジオパークフォトコンテスト係

お問い合わせは ☎ 025-765-1600 まで



応募フォーム

応募締切・・・2025年12月26日（金）17時（郵送での応募は同日必着）

詳しくは、チラシ、または「苗場山麓ジオパーク」の公式WEBサイト（<https://www.naeba-geo.org/>）をご覧ください。